

PTA

だより

平成26年3月1日

第111号

編集発行

岐阜県立各務原高等学校

PTA



2年生 理数科 課題研究

未来に向かって

PTA会長 佐藤 正

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、皆さんは3年間の数々の思い出を抱きつつ、4月から始まる新しい生活への期待と不安が入り交じった複雑な心境だろうと思います。この一年間、将来について色々と悩み考えてきた事でしょう。その上で導き出した人生の分岐点です。初心を忘れることなく目標に向かって邁進していただきたいと思えます。そして、共に悩み考えた諸先生方や仲間たちは一生の宝になる事でしょう。これからも大切にしていきたいと思っています。

高校時代から始まる数年間は、卒業生の皆さんはもろろ在校生の皆さんにとっても、社会人として世の中に出ていくために色々と学ばなければいけない大切な時期だといえます。進路に限らず悩みの多い時代であると思えます。そんな皆さんにお願いしたい事があります。

皆さんは受験のため、単位を取るために日々勉強を頑張っていると思います。しかし学んでいる事の中には将来本当に役に立つのかと疑問に思う事も度々あるでしょう。今皆さんが学んでいる事は物事の基礎になる部分です。ですから、そのまま社会で役立つ事は少ないかもしれませんが、今後身につけていく専門的な知識を積み重ねるための土台となるものです。この土台が弱くては高い知識を積み上げる事はできません。土台が狭くては幅広い知識を身につける事もできません。この先、多くの知識を身につけるためにも、今は無意味な勉強に思っても役立つ日が必ず訪れると信じ、日々努力していただきたいと思えます。

もう一つ、皆さんには失敗を恐れず何事にも挑戦して行く前向きな姿勢を持ち続けて欲しいと思えます。幸い本校は多くの皆さんが部活動に力を入れ、普段から試合やコンクールなどを通して挑戦する事の重要性を学んでいる事と思えます。ですが、部活動を離れ時間が経つと、つい守りに入ってしまう事が多いと思えます。誰もが失敗したり、試合に負けたりする事を嫌います。そのせいで挑戦をためらう事もあるでしょう。しかし、そこで挑戦をやめてしまったら前には進めなくなりません。この世の中に完璧な人などいません。誰もが失敗をするし試合に負け挫折を味わったりします。そして皆、その失敗や挫折の中から多くの事を学び、新しい力に変えて自分の成長に役立てるのです。皆さんは高校生活で多くの事を学んできました。失敗や挫折に正面から向き合い乗り越えていく力をすでに持っていると思えます。決して逃げる事なく目標に向かって前向きに進んで下さい。最後になりましたが、卒業生の保護者の皆さん、本当におめでとうございます。そして、これまでのPTA活動に対するご理解とご協力を感謝いたします。

在校生の保護者の皆さんには、これまでのご協力感谢您いたしますと共に、来年度以降のご理解ご協力を宜しくお願い致します。

夢から志へ

校長 日置 史彦

保護者の皆様、お子様の卒業、誠にありがとうございます。卒業という節目を迎えたお子様の姿に感激もひとしおと思えます。また、三年間本校の教育方針、教育活動に深いご理解をいただき、ご協力・ご援助をくださいましたことに厚くお礼申し上げます。

今年度のPTA活動を振り返ってみますと、四月のPTA総会に始まり、挨拶運動、校外研修、文化祭におけるカレーライスの販売、「学校をキレイにする日」など様々な行事・活動があり、お忙しい中、多数の保護者の皆様にご参加いただきました。PTA役員の方々にはその他に何回もの役員会、県高等学校PTA連合会等の種々の行事・会議にご出席いただき、本当にありがとうございました。

今年度のPTA関連行事で一番印象深かったことは、昨年八月に「夢から志へ」をメインテーマとして行われた「全国高等学校PTA連合会山口大会」です。会場が山口県ということで、長州ファイブについての話がありました。長州ファイブとは、幕末期の文久三年(1863年)に長州藩が国禁を破って英国に派遣した密航留学生五人、伊藤博文・井上馨・井上勝・山尾庸三・遠藤謹助の通称です。

彼らは「生きたる器械」となって日本を変えたる覚悟で渡英し、様々な困難を克服して、西洋の社会制度、最新の知識や先端技術を身に付け帰国して日本の近代

化に多大な功績を残しました。五人はそれぞれ個性を最大限に生かした志を立てて、積極的に西洋文明を取り入れ、一日も早く日本を近代化し、国の独立を守るべく努力しました。

「夢から志へ」の夢は、将来、実現させたいと思っている事柄で、志とは目的をはっきり定め、その実現のために努力しようとすることです。本校では、夢が見つけれられるキャリア教育の充実、そして志を立て、それを具現化するための学力と人間力の向上に努めております。保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、卒業される各務原高校四十一期生の皆さんが幸せで充実した人生を歩まれることと、保護者の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

三年間の回顧

「3年卒業に際して」



学年主任
宮嶋 恒行

ご卒業おめでとうございます。

入学式の後で皆様に「全員が笑顔で卒業式を迎えられるように」とお話したの

が昨日のように思い出されます。

右も左も分らない状態で入学した1年生…。大いに悩みました。初めは知り合いが少なく、元気がありませんでしたが、すぐに皆と打ち解けました。

新生祭の頃には各自が個性を発揮し、先輩と肩を並べるまでに成長しました。

後期になると生徒会活動、部活動に頭角を表してきました。特に生徒会活動ではここから2年間活躍した人が多く感じました(他校では選出に大変苦労してきました)。

2年生では文理選択の関係で普通科が1クラス増になりました。各自が自分の進路先を考え、目標に向かう学年となりました。進路指導室が南舎に移動したこともあり、進路を検討する姿が多く見られました。最大の行事は12月の修学旅行沖縄での経験でした。1年の頃から事前学習をしていましたが、実際の体験は多くの場面の感動につながりました。クラスの団結力を強める行事でした。

3年生になり普通科は国文、国理のクラスが設定され、進学への意識がより明確になりました。学校生活のあらゆる面でリーダーシップをとってくれました。進路選択の時期になって、面接練習・小論文指導に必死な姿が見られました。悔いを残さぬ進路決定ができたと思います。

お子様が、今後様々な方面で活躍されることを期待しています。保護者の皆様、3年間諸活動へのご協力ありがとうございました。

子供の意志を尊重すること

保護者 安田 和恵

十八年前に授かった双子の男の子。生まれた時から中学校までずっと同じ環境で育ってきた彼らが、初めて別々の高校でそれぞれの生活を始めた。小学生までは厳しくしつけ、中学生の時は中学生らしい自由を与えた。

そして高校生になった時、私はほとんどの事に関して彼らの意志を尊重し任せようと決めた。「高校生活を思いきり楽しんで欲しい」これが私の最大の願いであったから。

急激に私達大人に近づいてくる彼らと対等の位置で話をしようと心掛けた。親だからと上から話をし、考えを押し付けたのでは彼らの成長を認めていない事になるのでは・・・そんな思いがあった。

自由を認める事と放任とは違う。たくさん話をし、今、何を考えているのか、どんな将来を思い描いているのか、常に彼らに関心を持っていた。そうしてさえいけば私は何の不安も感じなかった。幸いたくさんの友達にも恵まれていたので、私と話す何百倍もの時間を友達と過ごし、いろんな思いを語り合っていたことだろう。

「自分がやりたい事をやりたい様にすればいいよ」私が何度も伝えてきた願いは彼らに届いた。自分の夢を見つければ具体的な将来を思い描き自分の進む道を自分で決めた。決して優等生ではないが、私の自慢の息子達である。夢がいっぱい詰まったこれからの人生、自分を信じて地

に足をつけて生きてくれることを願ってやまない。

「おっ」



3年6組
児玉 莉世

私は、各務原高校で過ごした3年間で、たくさんのことを学び、経験しました。年を重ねるごとに強く感じるようになってきた将来への不安や吹奏楽部部長としての責任を感じながらも、両親や先生、周りの友人に支えられ、充実感を味わうこともでき、人として大きく成長できました。中学生の頃から吹奏楽に力を入れていた私は、その経験を活かして様々な練習方法を提案しました。それを皆で実行し、常に上を目指して毎日全力で練習に励みました。部の成績が伸び悩み、心が折れそうになったときもありましたが、くじけず仲間と練習を続けるうちに、仲間を信頼できるようになりました。そして、個々の能力を高めることだけでなく、部員全員で刺激し合い成長することの大切さを実感し、改めて団体戦の難しさ、個人戦にはない、皆でつくりあげることの楽しさを知りました。

学習面では、授業を大切にしました。当たり前前のごとはありますが、中学生の頃には授業への集中力が欠けているところがあったので、高校では真面目に勉

学に励もうと努力しました。

進路を考えるようになる『看護師』という職について深く追求しました。受験が近づくにつれて自信がなくなり、保守的な考えから受験に対して消極的になってしまい、看護師をあきらめようとしたこともありましたが、それでも、多くの先生方が、私のために時間をさいて勉強や面接の指導に当たるなど支えて下さり、幸いにも志望校に合格できました。

最後になりましたが、吹奏楽部の皆さん、どうかこれからも、個人・全体の技術力向上のために力を注いでいって下さい。先生方には、勉強だけでなく身だしなみまでご指導いただき、この先、社会人になる身として、大変感謝しております。

3年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

進路結果速報

進路指導主事 森下 範子

推薦入試・AO入試・就職試験などの合格状況(1月8日現在)をお知らせします。

在校生のみなさんもこの合格結果を励みに、進路目標達成のために頑張ってください。

【国立大学】

信州大(1)・富山大(1)・岐阜県立看護大(1)・島根県立大(1)

【私立大学】

東京国際大(1)・国際武道大(1)・成蹊大(1)・東京農大(1)・日本大(1)・明治大(1)・立教大(1)・金沢工大(2)・朝日大(3)・岐阜経大(2)・岐阜女子大(3)・岐阜聖徳学園大(3)・東海学院大(1)・中部学院大(7)・岐阜医療科学大(4)・静岡理工科大(1)・愛知大(3)・愛知学院大(11)・愛知工業大(2)・愛知淑徳大(4)・金城学院大(2)・椋山女子学園大(8)・大同大(1)・中京大(9)・中部大(16)・東海学園大(3)・名古屋外大(8)・名古屋学院大(6)・名古屋経大(2)・名古屋商大(1)・名古屋女子大(1)・南山大(1)・名城大(10)・豊橋創造大(1)・名古屋文理大(1)・人間環境大(1)・愛知東邦大(1)・名古屋学芸大(3)・修文大(1)・佛教大(1)・立命館大(1)・関西大(1)・立命館アジア大(1)

【短期大学】

岐阜市立女短(8)・埼玉女短(1)・大垣女短(3)・岐阜聖徳学園短(5)・中部学院大短大(2)・東海学院大短大(3)・日本自動車短(2)・平成医療短(4)・



センター試験

愛知医療学院短(1)・愛知文教女短(1)・修文大短大(4)・名古屋短(3)・名古屋文化短(3)・南山大短大(2)

【専門学校】

岐阜県立衛生専(1)・名古屋市中中央看護専(1)・一宮市立中央看護専(2)・朝日大歯科衛生専(2)・トヨタ自動車学校(1)・あじさい看護専(1)・中日本航空専(1)・大原簿記医療観光専(1)・大原簿記情報医療専(1)・中日美容専(1)・中部美容専(1)・名古屋ビューティアーアート専(1)・名古屋医療秘書福祉専(4)・名古屋製菓専(2)・名古屋ユマーニテック歯科製菓専(1)・米田柔整専(1)・名古屋医健スポーツ専(2)・名古屋観光専(1)・日本聴能言語福祉学院(1)・名古屋スクールオブミュージック専(2)・名古屋総合デザイン専(1)・中部ファッション専(1)・ヒューマンアカデミー専(2)・HAL名古屋専(1)・名古屋調理師専(1)・東海医療工学専(1)・トライデントコンピュータ専(1)・名古屋外語ホテルブライダル専(1)・名古屋医専(1)・愛知調理専(1)・京都建築大学校(1)・エスモードジャポン東京校(1)

【就職】

岐阜県警(1)・航空自衛官(1)・消防職員(1)・中部電力(1)・ダイシン(1)・山内ホスピタル(1)・ライン精工(1)

各務原高校青年教師からのメッセージ

『おかげねまひ』



近藤 健二
(地公)

夏がくると冬がよいという、冬になると夏がよいという。太ると痩せたいという、痩せると太りたいという。忙しいと閑になりたいという、閑になると忙しいほうがいいという。

自分に都合のいい人は善い人だと誉め、自分に都合が悪くなると悪い人だと貶す。借りた傘も雨があがれば邪魔になる。金をもてば古びた女房が邪魔になる。世帯をもてば親さえも邪魔になる。衣食住は昔に比べりゃ天国だが、上を見て不平不満に明け暮れ、隣を見ては愚痴ばかり。どうして自分を見つめないか、静かに考えてみるがいい。いったい自分とは何なのか。親のおかげ、先生のおかげ、世間様のおかげの塊が自分ではないか。つまり自ら自我妄執をすてて、得手勝手を慎んだら世の中はきっと明るくなるだろう。おれがおれが捨てて、おかげさまでおかげさまでと暮らしたい。

私は一年を通して机の中のこの詩を何度か見ます。実力が付けば、環境に慣れれば、大切なものを見落としてしまうことがあります。みなさんは高校生活の中で様々な分野で成長し、一回りも二回りも大きくなることでしょう。しかし、そこには周りの計りしれないサポートがあることを決して忘れないでください。

これからも困った時に助けてくれるのは友人です。周りの人を心の底から大切にし、かけがえない人間関係を作ってください。いつか助けられる日がくると思います。

『ヨウキ』



渡辺 いずみ
(英語)

各務原高校に着任し、早くも1年が経とうとしています。私にとって今年度はとても大きな変化の年であり、先生方、生徒の皆さん、家族など沢山の人達に支えて頂いていることに感謝する毎日でした。

高校を卒業してから今までを振り返り思うことは、これまでの時間が様々な人との出会いの連続だったということです。大学、地歴講師、カナダ留学、企業での英語教師と、一つの道に定まらない人生でしたが、その中で色々な年代や職業の方々に出会い、各国の人達と関わることもできました。また、高校の頃には未知だった世界や文化についても知ることができました。大学生の時にはどういうわけか「ゴジラ論」や「舞踏」といった少し変わった講義を受講し、新鮮な衝撃を受けました。初めて能楽堂で能狂言を観た時のタイムスリップしたような感覚は今でも忘れませんし、今まで訪れた国々の景色や香り、交わした会話は記憶に焼き付いています。

皆さんは、これから数多くの人達に出会い、新しい世界を開拓していきます。楽しいことばかりではないかもしれませんが、自ら経験することで、私たちは感じ、考え、何かを体得することができるようになります。デジタル化が進み、どんな事も瞬時に調べられる時代になりましたが、ぜひその場に行き、色々な人に出会い、そこでしか見えないものを見たり、空気を感ぜたりしてみてください。その経験の一つ一つが自分自身を豊かにし、自らの世界を広げ、また自分にとって本当に大切なものや人に出会うことに繋がるかもしれません。様々な出会いの蓄積が、私たち自身を形づくっていくような気がしています。

『信じてみよう』



田中 由美
(英語)

You can't connect the dots looking forward. You can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future. (Steve Jobs)

この1年は、私にとって教員として再スタートの年でした。中学の頃から夢見ていた「学校の先生」。理想と現実のギャップや自分の弱い心に負けて一度は離れてしまった道でした。しかし、自身と向き合う中でやっぱり教員になりたいと気づき、一からやってみようと思えて数年。多くの人に励まされながら「なりたい」という自分の気持ちを信じて進んできました。そして4月、縁があつて赴任することができたのが各務原高校でした。

何もかもが初めての毎日は、不安と緊張に押しつぶされそうになることも多かったです。それでも望んだ場所での生活、感謝の中で過ごせる日々は喜びに溢れていました。周りの方々に支えていただき、生徒と共に学ぶ中で感じられる達成感や充実感はとても大きなものです。

ぜひ、自分の心と向き合い、それを信じて挑戦することから始めてみてください。楽しいと感じられることより苦しいことの方が多いいかもしれません。でも十代のみなさんには無限の可能性があります。遠回りしてもたまには寄り道してもいいです。信じて進んだ後には、自分だけの道ができています。私も歩み始めたばかりです。みなさんに負けないように、挑み続けたいと思います。

部活動

師・弟(子)・親の トライアングルメッセージ 囲碁部



囲碁部顧問
藤澤 博子

本校の囲碁部では、全国大会に出場すること、初段になること、という2つの目標を掲げて活動をしています。ほぼ毎年、東海大会に出場するという成果を上げています。保護者の皆様には、日ごろの囲碁部の活動にご理解していただいていることに感謝いたします。

囲碁のマンガを読んで興味を持って入部してきた部員も多く、部員のほとんどが入門や初心者からのスタートです。囲碁にはルールは5つしかなく、すぐに対局ができるようになります。ハンデーも簡単に付けることができるため、棋力の差に関係なく楽しく碁を打つことができます。また、認定大会では正式に段級位が認定されることが生徒の励みになっています。

競技は、基本的には、個人戦ですが、高校の大会には団体戦もあります。3人が1チームとなり対戦し、2勝以上したチームが勝ちです。そのため、日ごろの練習も、自分だけが強くなるのではなく、お互いに切磋琢磨し上達することを狙っています。最近はいろいろな直感型ゲームが多い中、囲碁を通して、じっくり考

え、自分の考えのほかに相手への考えにも思考を巡らせ、そして、大局観を身につけてほしいと考えています。

休日にはおじいさんに碁を教えてもらいに行くと話す部員や、お兄さんと碁を打つことを楽しみにしている部員もいます。囲碁を通して、部員や保護者、顧問そして多くの人と交流の和が広がっていることを願っています。



囲碁部前部長
渡邊 真幸

昨年度、先輩方が目指していた全国大会出場を惜しくも果たすことができませんでしたが、その目標は私たちに引き継がれました。決して容易に達成できる目標ではありませんが、全員が「絶対に勝つぞ」という気持ちで練習してきました。藤澤先生や先輩方のサポートもあり、全員が大きく成長することができました。

昨年5月に行われた全国高校囲碁選手権岐阜県大会では、メンバー全員がベスト8に残ることができませんでした。団体戦では、男女とも3位に入賞はできませんでしたが、全国大会に出場する夢は実現できませんでした。先輩達や私たちの目標を達成することができなく、とても残念な思いをしました。しかし、段級位認定戦においては、ほとんど全員が昇級昇段することができ、皆が強くなれたのだと感じました。

囲碁は、白と黒の碁石を交互に盤上に置き、陣地が広いほうが勝利するというシンプルなゲームです。自由度が高い

め、何をやってよいか分からず、初めは難しすぎてすぐにやめてしまおうという状況がありました。しかし、私たちは最後まで楽しく続けることができました。その最大の理由は皆で囲碁について学べたことや、仲間と励まし合い、相談しながら、お互いに取り組めたからだだと思います。

この3年間の部活動を通して、かけがえない仲間と過ごすことができました。私たちは、この囲碁部に入って大切な仲間に出会い、高校3年間の青春の日々を有意義に過ごすことができました。

先輩方には、私たちと同様に、高い目標を持ち、それに向かって全力で取り組んでほしいです。本当にありがとうございました。

囲碁部保護者代表 渡邊 辰己

3年前、わが子と一緒に学校に行っていたことを思い出します。私が在校していたときにあったグラウンドの芝生がない。校舎もきれいになった…。でも、周りの風景はあまり変わっていないなあ。この子はという高校生活を送るのかな、と思っています。それから「囲碁部に入りたい」と言い出しました。中学時代、ついに補欠のまま終わった運動部だったことを思えば、そういう選択もいいか、まあせいぜい楽しんでやってください。

1年生の時から試合に出場させていたが、勝った時の喜び、負けた時の口惜しさ、それまでとは違った楽しさを味わうことができるようになったからか、親からみると楽しんでいる様子でしたので、

本人としては、充実した部活動であったと思います。

部長を任せられるようになってからは、全国大会出場という目標に向かい、部員をまとめるという責任を持ち、日々の活動をしていたようです。

それまで自分自身のことしか考えていなかったような子が、部員全員のことを思いながら目標に向かっていくことができるようになったことは、人として成長した部分ではないかと、頼もしく思うところです。残念ながら目標は達成できませんでしたが、楽しく3年間の部活動を終わることができたのは、素晴らしい指導者の先生と先輩そしていい仲間に出会えたものと思います。ありがとうございました。



部活動回顧

特別活動部 山田 英実

本年度は、ここ数年のサッカー、ラグビー、囲碁の活躍に加え、昨年から活躍のめざましい弓道部が、北九州市で開催された全国高校総体の男子個人戦に、創立以来初めての出場を果たしました。

サッカー部は、全国高校選手権岐阜県大会に5年連続で決勝まで駒を進め、先取点を奪いましたが、岐阜工業高校に惜敗しました。来年こそ夢の実現を果たして欲しいものです。

ラグビー部は、全国高校選手権岐阜大会で、岐阜工業高校と対戦し、本校ラグビー部40年の伝統の中で、歴史に残る名勝負を展開してくれました。結果は敗北をし、3位に入賞しました。

囲碁部は全国大会への常連であります。が、県の文化部活動推進指定校となりました。また、書道部の活躍も今年のハイライトといえるでしょう。

その他に特筆すべきは、もう少しで県の上位に入賞しそうな部が増えてきたことです。剣道、ハンドボール、硬式テニス女子、美術など、ベスト8に入る部が増えました。言い換えれば、各務原高校の全体的な成長が見られた年であったと思います。

本校の部活動にはないので、外部で活動し、国体で入賞した生徒が2名いました。我々の仲間の中に日本を代表するアスリートがいるということは、とても喜ばしく、誇りに思います。

来年は、より一層多くの仲間が全国に羽ばたけることを願って、本年度の回顧とします。

※主な記録

【サッカー部】

第92回全国高校サッカー選手権
岐阜県大会 第2位
平成25年度岐阜県ユース
サッカーリーグ1部 優勝

【ラグビー部】

第18回東海高等学校選抜
ラグビーフットボール大会出場
第58回全国・第60回東海高校総体岐阜県
予選 ベスト4
第93回全国高校ラグビーフットボール大
会岐阜県大会 第3位

【弓道部】

第58回全国高校総体
男子個人 出場 横井深太
第60回東海高校総体
男子個人 出場 横井深太
第58回全国高校総体岐阜県予選会
男子個人 優勝 横井深太
第32回全国高校選抜大会岐阜県予選
男子団体 第3位
女子団体 第2位
平成25年度岐阜県高校新人大会
男子団体 第3位

【剣道部】

県新人戦・全国選抜予選 ベスト8

【ハンドボール】

県総体 ベスト8

【硬式テニス女子】

県新人戦 ベスト8

【囲碁部】

第37回全国高校囲碁選手権大会
岐阜県大会 男子団体 第3位
女子団体 第3位
第33回東海地区高校囲碁選手権
男女団体 第6位
県高校総合文化祭囲碁新人大会
男子団体 第2位
女子団体 優勝

【書道部】

第67回岐阜県美術展 青年部入選
小林静佳・安田茉莉
県高校総合文化祭書道展
優秀賞 西上由里佳

【美術部】

岐阜地区高美展 優秀賞

【県指定部】

岐阜県強化指定部 サッカー部
岐阜県文化部活動推進指定校 囲碁部

【第68回国民体育大会】

山岳競技
ボルダリング競技 第3位 亀山凌平
リード競技 第5位 亀山凌平
馬術
少年ダービーの部 第3位 中村優太

国体に出場して

2年5組 亀山 凌平

国体の山岳競技は、リードとボルダリングの2つがあります。

リードは、ロープを使って壁を登る高さを競い、ボルダリングは、ロープなしで制限時間内にいかに多くの課題でゴールまで登れるかを競います。

昨年の岐阜国体に続き、東京国体で2回目の国体出場となり、ボルダリング3位、リード5位という結果を残せて、とてもうれしく思っています。

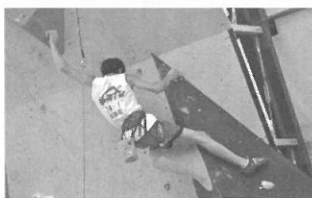
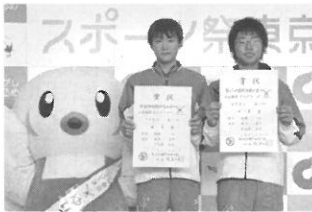
国体では、県代表選手2名の結果を平均したもののが成績となるので、上位に入賞するためには、2名ともよい結果が求められます。しかし、初めて出場した岐阜国体では、思うように力を発揮しきれず、後悔が残りました。

本番で全力を出す難しさを感じたので、それから国体での経験を生かした練習を積み重ねました。その甲斐あり、東京国

体では、2名の平均を引き上げる結果を出せました。

今年は、受験があると同時に、国体に少年男子で出場できる最後の年です。

高校生活の中で得た幅広い経験を生かし、今まで応援して下さった方々への感謝の気持ちを、3位を上回る成績を残すことで伝えたいと思いながら練習に励んでいます。



リード競技